# 森りんたろう

ともに創ろう、たからづか

小児科医師
元国連職員

## 森りんたろうとともに創る、わたしたちのまち宝塚

### ① 健康といのちをまもります

**医師としての診療と社会保障政策の知識と経験、ネットワークをいかします。**

市立病院の建て替えを機に、医療・福祉・介護資源を最大限に活用したネットワークを構築します。

### ② くらしをささえます

**子育て支援や高齢化、まちづくりの政策の知識と経験をいかします。**

すべての世代が安全に、安心して、自分らしく暮せるように、ソフト・ハード両面の環境を整備します。

### ③ そのいのちとくらしをつむぎます

**市民参加型の行財政改革の知識と経験をいかします。**

一人ひとりが「わたしたちの創ったまち宝塚」と感じられる、そんな市民参加型の行政をめざします。

# 森りんたろう

## ともに創ろう

わたしたちのまち

## たからづか

54歳
小児科医師
元国連職員

**【プロフィール】** 1970年9月17日生まれ、宝塚在住。六甲学院（中高）、岡山大学（医）、ロンドン大学（院）卒。子ども時代、真木共働学舎での障がいのある方とのたすけあいの暮らしを体験。阪神淡路大震災では初日から長田区保健所で医療ボランティアとして活動する。国内外での幅広い市民参加型の医療や社会政策の研究・立案・導入の経験を積む。大阪大学大学院医学研究科・特任教授、関西学院大学客員教授、宝塚市立子ども発達支援センター非常勤医師を務める。著書：「ひとの病いと社会の病い」「持続可能な医療を創る」「イギリスの医療は問いかける」など

**宝塚市民の皆さまへ——** 小児科医として、元国連職員として、いのちに向き合いながら、社会のさまざまな課題を解決する仕事に取り組んできました。宝塚にもまた課題があります。医療、子育て、介護、少子高齢化。そして、財政。簡単に解決できない、それぞれがからみあう複雑な課題です。しかし、**たからづかには希望があります。それは人、市民の皆さんです。**こんなにも人と人が互いに支え合うまちがあるでしょうか。公共財を支える人、地域を支える人、創造的な活動に取り組む人。人が支え合う文化と緑にあふれるまち、それがたからづかです。**公平、公正、透明に市政の事業を整理し、市民の皆さん一人ひとりがいきいきとすこやかに暮らせるまち**になれば、このまちは輝きを取り戻すことでしょう。そして、子どもたちがその子らしく育つまちをともにつくりましょう。**すこやかで、ゆたかで、癒やされるまち。**まち全体が公園のように、人々がいきいきとそれぞれらしく花開く、そんなたからづかを、ともに創りませんか。

ともに創ろう たからづかニュース 2号
発行：ともに創ろう たからづかの会　　発行責任者：廣本 憲司
宝塚市逆瀬川1丁目11-1・アピア2・B1階　TEL：0797-63-6068　FAX：0797-63-6069
森りんたろう　Web

# ひとりひとりにやさしい「ささえあいのまち宝塚」へ

## ■森りんたろう、宝塚市政への想い

豊かな自然環境と伝統ある文化が融合する、
わたしたちのまち宝塚。

世界は今、気候変動や地域紛争、少子高齢化、物価高など大きな変動期を迎えています。わたしたちのまち宝塚も重大な分岐点に立っています。このような時代だからこそ、

**「ひとりひとりにやさしい、ささえあいのまち宝塚」**

を目標に掲げたい。今までの経緯や現状に関する徹底的な分析と評価を行い、それらを基に市民と幅広い専門家が力を結集して中長期のビジョンを策定し、それに沿った改革が必要と考えます。

新しいものを次々に買い増やすのではなく、さまざまな方の意見や経験を活かして分析と検討を重ねたうえで、いまある豊かな自然環境と歴史ある資源を最大限に活用する、これが新しい宝塚への道しるべとなるでしょう。

- ●全ての取り組みの礎である財政基盤を安定させ、将来にわたって持続可能な財政規律を構築する。
- ●高齢化課題や、新たな感染症の流行等に、健康やいのちが脅かされることのないよう、医療や福祉、そして介護が一体となって、市民の生活に寄り添う。
- ●出産、保育、教育など、将来を担う子どもたちが伸び伸びとその子らしく成長できるように、地域で温かく子ども達や家族を見守る環境をつくる。
- ●公共交通の利用や買い物など日々の暮らしが安全で、便利な生活基盤を維持する。
- ●阪神淡路大震災の記憶を胸に、きたるべき災害への準備を充分に整える。

## ■森りんたろう（もり臨太郎）プロフィール

1970年9月17日生まれ、西宮育ち、宝塚在住。六甲学院（中高）、岡山大学（医）、ロンドン大学（院）卒。
子ども時代、真木共働学舎での障がい者とのたすけあいの暮らしを体験。阪神淡路大震災では初日から長田区保健所で医療ボランティアとして活動する。国内外での幅広い市民参加型の医療や社会政策の研究・立案・導入の経験を積む。大阪大学大学院医学研究科・特任教授、関西学院大学客員教授、京都大学客員教授を務める。著書：「ひとの病いと社会の病い」「持続可能な医療を創る」「イギリスの医療は問いかける」など。

オーストラリアでは空飛ぶ医師として

ブータンの奥地で子育ての悩みを聞く

国連職員として少子高齢化への対応を訴える

# わたしたちも、森りんたろうを応援します

秋葉忠利・前広島市長
上原公子・元国立市長
大槻信夫・NPO法人理事長
木下達雄・浄土宗大林寺前住職
木村佳友&エクラ・日本介助犬使用者の会会長
中川智子・前宝塚市長
中辻悦子・芸術家
廣本憲司・ひろもとクリニック院長（後援会会長）
福井稔・日本キリスト教団宝塚教会信徒
保坂展人・世田谷区長
細川貂々・漫画家
本田芳孝・宝塚の平和と人権を考える会代表
森信雄・日本将棋連盟七段棋士
矢部美紗・ハートオリーブ代表
山本真一郎・ゴスペル奏者・歌手

発行：森りんたろう市政ニュース1号
発行責任者：森りんたろう
連絡先：福井稔（090-1909-0203）

Web サイト　YouTube　facebook　X　Amazon

世界で活躍した

# 小児科医を市長に!!

## 未来のまちに新しいリーダー

ともに創ろう たからづかの会
TEL:0797-63-6068　FAX:0797-63-6069　MAIL:moririnnokai@gmail.com

## 医療・福祉・介護・保健改革「宝塚モデル」

累積赤字112.8億円が市立病院への高額寄付により
44.3億円へ大幅減の試算

▼

市立病院の建て替えとともに、
医療、福祉、介護、保健に関する施設※を経営統合
※西谷国保診療所、介護老人保健施設ステップハウス宝塚、子ども発達支援センターなど

▼

財政改善に加え、各施設が連携を強化できるようになり、
暮らしやすさや命に関係する保健、福祉、医療サービス、
そして子育て環境の充実

▼

市民がよりすこやかになり、
一人ひとりの可能性が自ずと発揮されるまちになっていく

人が支えあう
文化と緑にあふれる
宝塚らしい
まちに

### 緑と文化のまち

民間の病院・診療所・介護施設・福祉施設、民生委員、自治会、
まちづくり協議会、社会福祉協議会などと効果的な連携

環境の中から自然と健康が増進される

## 財政改革と暮らしやすい まちづくりは両立できます。

# 私たちも、森りんたろうを応援します（敬称略）

相野　博司　六甲学院４６期
秋野　徹二　高松町
梓　　晴輝　(株)ダリアジェンヌ
天野ほたる　furiburi
井口　成子　米谷
池辺　幸恵　仁川高台
磯部　　愛　小林
伊藤あかね　売布
伊藤　貴子　売布
乾　　泰夫　育種園
井上きよし　障害者スポーツ協会
井上　　智　鹿塩
井上　みえ　平井
井上有希子　鹿塩
今井　信行　いまい内科クリニック
岩下　節子　寿町
植木ひろみ　中筋
上田　久美　梅野町
上田　博義　梅野町
宇都宮　勝　福井町
海﨑多佳子　中山寺
梅田　晶子　Fu-do＊Foods
江原　伯陽　売布
戎　　剛　小林
大島淡紅子　宝塚市議会議員
太田　妙子　梅野町
大野　貞子　すみれガ丘
大野　良平　現代美術家
大森　悦子　紅葉ガ丘
大森　　繁　紅葉ガ丘
大森　千鶴　寿楽荘
大森　成樹　紅葉ガ丘
大森　秀樹　川面
大森みどり　川面
大森　雄大　寿楽荘
小川　悦子　すみれガ丘
小野　雅也　おのクリニック
甲斐　明美　新日本婦人の会
甲斐　修児　花屋敷荘園
加川　恭子　社町
柿原　章子　売布東の町
柿原　高弘　売布東の町
梶川美佐男　宝塚市議会議員
片山　玲子　川面
門脇むつ子　つばめ軽食店
金山　次代　山本西

加納　邦子　平井
加納　健次　平井
株本　美保　パーマカルチャーデザイナー
茅野ノリ子　千種
茅野　涼一　千種
河江　キク　中筋山手
川口じゅん　宝塚市議会議員
川島　佳子　高司
川瀬　二見　谷口町
川端　　穣　御所の前
河原　　康　伊子志
河村　康友　中筋山手
神戸優香里　国民救援会
岸本　通彦　岸本医院
木田　　寿　山本台
北野　聡子　宝塚市議会議員
木下　貴美　御殿山
木下　達雄　御殿山
清谷　　緑　小林
久木田　純　国連OB
草野　　恵　亀井町
草野　義雄　亀井町
久保　秀美　中山台
古家　義高　大原野
合田　　潔　合田外科
児島しのぶ　山本野里
児玉　主恵　売布
兒玉佐知子　清荒神
児玉　潤一　売布
後藤　友子　安倉中
後藤　充康　後藤医院
後藤　峯雄　仁川高台
小林　壽雄　仁川
小紫　　祐　すみれ治療院
駒走　拓三　光明町
阪上　育恵　山本丸橋
榊　　いく　武庫川町
佐々木民男　武庫川町
佐々木基文　小林
佐々木由美　タイ式マッサージサロンドイプイ
佐々木好根　武庫川町
笹田　　彩　華と薫り
定藤　繁樹　「たからづか学」編著者
篠原　裕美　高司
柴田　昭子　なちゅらるりーふ
柴田　邦雄　なちゅらるりーふ

島田ひろ子　清荒神
赤土　充男　青葉台
末岡　　悟　末岡内科医院
杉﨑　桂子　小林
鈴木　桃子　南海グリーンサポート
相馬　新一　雲雀丘山手
髙田れいか　武庫川町
髙野　　勉　宝塚たかの小児科
高橋　章子　宝塚母親連絡会
高鷲　昭子　塔の町
田中　章子　ゆずり葉台
田中　こう　宝塚市議会議員
谷川　俊一　武庫山
谷添美也子　星の荘
田渕　静子　下佐曽利
田渕　正俊　下佐曽利
土屋比佐子　書家
冨田由貴乃　食育プロポーザー
外山　和美　泉町
内貴　麻子　高司
内貴　　清　高司
中尾　浩康　元伊賀市社協常務理事
永島　たき　山本
永島　　昇　山本
中田幸千代　光明町
成田　直美　宝梅
成山　　硬　成山クリニック
仁木佳代子　高司
西沢由実子　セラピスト
西田　光彦　(株)テルッツォ
西村　鉱行　西村植木
西村　宗秀　宝塚茶道同好会
仁禮　初枝　花屋敷荘園
ねりき恵子　前兵庫県議会議員
信長たか子　清荒神
信長　正義　清荒神
野村　牧子　野上
乗鞍　隆義　安倉
乗鞍美代子　安倉
萩原　恭子　売布東の町
橋本絵美子　大原野
橋本　成隆　大原野
橋本　成年　兵庫県議会議員
花尻多美子　安倉中
埴生美伽子　シャンソン歌手
濱田　正子　清荒神

板野　紘子　雲雀丘山手
東元貴美代　旭町
廣瀬　哲司　ひろせ整形外科クリニック
広瀬　則子　星の荘
廣本　憲司　ひろもとクリニック
福井のぶみ　武庫山
福井　　稔　武庫山
福田　隆博　御殿山
藤井　邦洋　小林
古岡　伸章　末廣寿司
前田　聖子　中山五月台
前野　浩子　野上
松井　美奈　boca
松島　千文　平井山荘
松原　光治　売布
松下　　剛　山本台
松本　量子　山本台
松本　和洋　売布
丸井　康司　The WorktuRe
三木田健次郎　高司
三木田風花　高司
水木純一郎　売布
三角真由美　言語聴覚士
みとみ智恵子　宝塚市議会議員
三原　伸也　清荒神
宮部　広子　山本
村岡　靖泰　ステンドグラス作家
森川　悦子　平井
八尾幸次郎　御殿山
柳田　則子　山本丸橋
柳田　欣伸　山本丸橋
山内　　緑　清荒神
山下久実子　安倉南
山下　翼子　安倉中
山下　峰幸　安倉中
山本　太郎　中山桜台
山本　洋子　仁川高丸
吉川　　幸　武庫川町
吉田　美樹　社会課題リサーチャー
吉野　晴朗　写真家
吉見ふき江　売布
米田千代子　東洋町
脇田　浩美　平井山荘
和田　満枝　旭町

（五十音順）

国民民主党代表代行・衆議院議員
## 古川 元久

森りんたろうさんは国連での少子高齢化に向けた政策転換の経験を活かし宝塚市の行財政改革を進めていける逸材です。応援しています！

小児科医・衆議院議員
## 阿部 知子

産後一年間のお母さんの死亡原因はうつ病！という森りんたろうさんの報告から、お母さんと赤ちゃんを守る産後ケア制度が日本で始まりました。“命”を守る最前線に立つ森さんを応援します。

わたしたちの望む未来の市立病院を実現してくれるのは、医療改革の経験がある森りんたろうさんしかいません。応援しています。

**岡本光一・明美**

ともに創ろう わたしたちのまち たからづか

# ボランティア、小児科医、国連職員…　森りんたろう　これまでのあゆみ

### 原点は、支えあって暮らす経験

阪神間で生まれ育ちました。子ども時代で特に印象に残っているのは、夏休み1ヶ月を長野県の真木共働学舎で過ごしたこと。さまざまな障がいとともに生きる人たちと、農作業や家事など**それぞれができることをして、お互いに支えあって暮らす**ことを経験しました。さまざまな感情が交錯した日々は、私をつくり上げた原体験だったようにも感じます。

### 医療ボランティアとして活動

六甲学院中・高を経て、岡山大学医学部に進学。六回生のときに阪神淡路大震災が起きました。

ニュースに映し出された故郷の惨状に居ても立ってもいられず、**国際NGOの医療ボランティアチームに参加**。最も被害が大きかった長田区の保健所で、医療チームの運転手や、調剤の手伝いといった活動をしました。ボランティアなど市民活動と行政をつなぐしくみの必要性、災害に強いまちを創ることの重要性を強く感じました。

### 小児科医として奮闘

大学卒業後は、瀬戸内海の島々や山あい、都市部など、さまざまな地域の病院で経験を重ね、小児科専門医となりました。どこの地域も異なる問題を抱えており、多様な解決に取り組みました。経営困難に陥った四国の市民病院では、**良質な医療のための経営健全化改革**の一端にも関わりました。

### 活動の場を海外へ

小児医療の現場でさまざまな課題と向き合ううち、海外の医療システムを学びたいと思うようになり、一念奮起して海外へ。オーストラリアでは南オーストラリア州の母子病院で小児科医として診療に従事。さまざまな輸送手段を連携させた救急医療を通じて、過疎の地域の少ない医療資源でいのちをまもる制度の工夫を学びました。(写真②)

また、ネパールをはじめとする途上国では、過疎地に住む文字を学んだことのない家族の健康をどう守るかという課題に携わりました。

**地域の資源を最大限に効率よく効果的に活かす**こと、**医療や福祉を連携して総合的に人びとを守るしくみを構築**していくことの重要性を痛感しました。

### 英国で市民参画の政策づくり

医療の現場から体験したことを礎に、社会の制度や政策作りを専門的かつ系統的に学ぶため、ロンドン大学大学院へ。在籍中から、保健医療改革を主導したブレア政権肝いりの保健省の組織に就職し、**持続可能な社会保障のための科学的根拠と市民参画を基にした政策作りに関わり**ました。チームの一員として関わった政策は国の保健医療政策の方向性を大きく変え、新聞にも大きく取り上げられました。(写真③)

### 帰国、医療と福祉政策のプロとして

海外での経験を日本で活かしたいと帰国。大阪府、世界保健機関(WHO)、東京大学などを経て、国立成育医療研究センター政策科学研究部長に就任。

子育てをめぐる厳しい環境、母親の産後うつなどの研究を通じて、自治体の政策作りに携わりました。中でも、**市民参加型で先進的な取り組みをしている世田谷区と連携**して、出産前後の女性を支えるための**産後健診制度の設立**に至ったことは、とても貴重な経験となりました。一方、同センターでは管理職としてマネジメントについても深く学ぶことができました。組織として向かう方向性を示しながら、風通しの良い職場の雰囲気づくり、必要な時には決断する。一人ひとりのニーズに配慮した、**ポジティヴで生産性の高い組織文化づくりの重要性**を再認識することができました。また、自治体の財政再建のための事業整理に関わり、粘り強く議論すること、そして市民が「自分ごと」として参画することが大切であることを学びました。(写真④)

### 国連職員、社会を次へつなぐために

少子高齢化が進む社会保障政策に向き合う延長線で、国連職員としてアジア太平洋地域の少子高齢化関連政策を担当。急速に進んでいる**少子高齢化への対応が迫られるアジアの国々で、基本戦略を策定**する経験をしました。ブータンの奥地で子育てや高齢化の悩みを聞き、国連会合では人口問題への対応で連携を訴える、現場と政治を行き来する毎日でした。国連では高齢者や子育て世代にやさしい街づくりや、持続可能な観光都市の街づくりなどの支援の経験もしました。(写真⑤⑥)

帰国後は、大阪大学医学系研究科の特任教授として、成人の孤立死や青少年の自殺などの研究を基にして、**ソフト面・ハード面両方での環境を整備した住みよいまちづくり**に携わっています。

### 宝塚在住、"わたしたちのまち"に

プライベートでは、緑豊かで文化と自然が美しく共生する**宝塚に魅かれて永住**。地域での市民グループの活動に触れ、原点に返り、**市民が集まって、自分たちのまちを良くしていく活動の大切さ**を改めて感じています。

宝塚で生まれ育った子どもたちが、その子らしく成長し、誇りをもって仕事や社会貢献をし、それぞれの希望に沿った家族をはぐくみ、文化と緑に癒され、そして安心して終の棲家として暮らす。

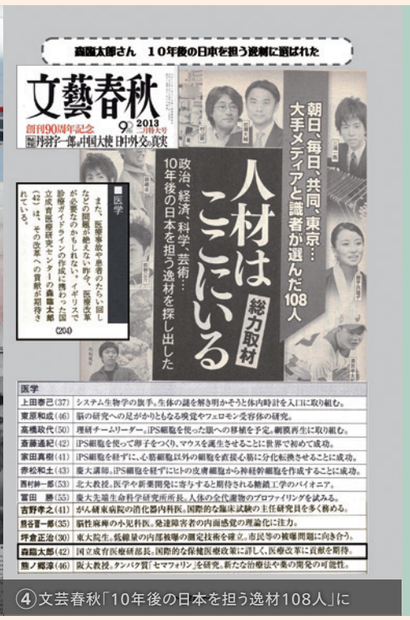
**いのちを守り、暮らしを支え、その命と暮らしがずっと紡がれる宝塚**を、市民のみなさまとともに創っていきたいと願っています。

もりりんのあゆみ
画：細川貂々

①阪神淡路大震災(写真提供：神戸市)

②オーストラリアでは空飛ぶ医師として

③英国の新聞記事で大きく取り上げられる
イギリスThe Telegraph誌・2005年10月16日発行



④文芸春秋「10年後の日本を担う逸材108人」に
文藝春秋2013年二月特大号・第91巻第2号・2013年2月1日発行

保坂展人さん
世田谷区長
応援メッセージ

「森さんは成育医療研究センター(世田谷区)で、出産前後のお母さんたちのメンタルヘルスを支える産後ケアの世田谷モデルのために尽力し、そこから国全体の母子保健制度改革につなぎました。その努力が、全国で行われている産後健診制度となり、感謝しています。医師としての専門性を持ちながら、子育ての現場の声に謙虚に向き合い、血の通った制度設計を手がけてくれた森さんこそ、宝塚から日本を救う人です。」(世田谷区長・保坂展人)

⑤ブータンの奥地で子育ての悩みを聞く

⑥国連職員として少子高齢化への対応を訴える